



### 岡崎教育の使命

日本民族の使命は、そもそも如何なる  
 辺にあるというべきであろうか。それは  
 私の思うに、全人類に対して、東西文化  
 融合の一大拠点となり、その縮図を提供  
 することではないかと思うのである。

だが、民族の現状をかえりみる時、そ  
 のような雄深にして高遠なる大理想を荷  
 なうに堪えないばかりか、へたをすると  
 このまま起ち上がれないで、民族の崩壊  
 すなわち亡国へのめり込んでしまうの  
 ではあるまいかと憂慮の念を禁じえない  
 のである。

では、それに対してわれわれは、一体ど  
 うしたらよいかというに、それにはさし  
 当たつてわが岡崎教育を、日本教育再建の  
 一大拠点とし、そしてそれへの縮図を、  
 全日本の教育界に提供することの他ある  
 まいと思うのである。

哲学者

森 信 三

昭和50年3月1日  
 編集／発行  
 岡崎市教育委員会

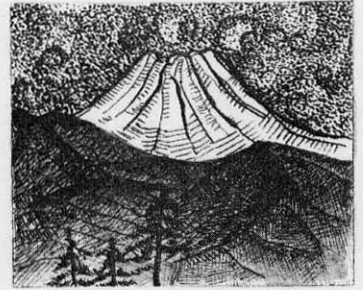


(学而不厭／湯川秀樹 東海中)

# 正直な

## 岡崎市民

小林俊雄



どうしても話題が暗い悲しい不幸事件になるのは、警察の宿命と言えよう。しかし、そうした人生の陰に、逆に、光り輝く人間の美しい心にも屢々接することがある。

- 正座し動哭しながら、三年前の殺人を告白した三十二歳の暴力団員。
- ショッピングで買物をした靴下の料金を支払わず、警備員に見送られた酒に酔った老人が、その責任をとって自殺したこと。

○ 百貨店でオモチャを万引した十二歳のわが子の目の前で、そのオモチャをこわし、直ちに、子どもを連れ、代金を添えて詫びに来た四十歳の父と母。

人間はあやまちを犯しやすい。しかし、そうした人の心の中にも、珠玉のような美しい心が光り輝いている。  
「ネコババ」は泥棒の始まり。拾った物は届ける。これは大正生まれの私たち

が親から教えられた素朴な教育であった。かっぱらい、買引、万引の多い中で、この道徳は国民の中にしつかりと根をおろしている。特に岡崎市民は正直である。昭和四十九年中の岡崎警察署管内での拾得金の届出率は、別表のように全国より二六、四％、愛知県下平均より一八、八％、県下二十万都市の一宮、豊橋、豊田市より、いずれも二〇％も高い数字を示している。

ニューヨーク警察庁が、警察官の拾得金取扱いの正確度をテストしたところ、二一％の警察官が「ネコババ」をしてい

区分	項目	落としたお金	拾ったお金	拾得率
全	国	一一七億九、六〇〇万円	四九億一、五〇〇万円	四一、六％
愛	知	七億三、五〇〇万円	三億六、二〇〇万円	四九、二％
岡	崎	二、三〇〇万円	一、六〇〇万円	六八、〇％
豊	橋	三、九〇〇万円	一、八〇〇万円	四七、九％
一	宮	三、一〇〇万円	一、四〇〇万円	四八、〇％
豊	田	二、五〇〇万円	一、〇〇〇万円	四一、八％

た。総監は「一般市民よりは正直だった」と弁解した記事を読んだ。アメリカの拾得率が何％かは記事になかったが、七九％より低いことは事実であろう。  
岡崎の拾得率六八％は実にすばらしい数字である。しかも落とした届の中には水増しや間違いもあるので、実質はニューヨーク警察官以上の正直さではないかと思う。

よれよれの作業衣を着、破れたサンダルをはいた老人が、二万円を拾って届けた。六か月すぎて落とし主が分からず、その金は老人の手元にもどされた。その老人は、その場で、二万円全額を恵まれたい人にと寄付していった。

拾い物は「天の物」、社会へお返しするという老人の心が光り輝いていた。

この老人の心は、長い歴史と伝統に育てられた市民の潔癖感であり、そのまま現代へ受け継がれているのであろう。ギスギスした社会の中で、落としたお金は必ず誰かが届けてくれる。そんなひとことだけでも社会はうんと明るくなるのではないだろうか。私は岡崎市民にその可能性を信じている。(岡崎警察署長)

いまはむかし



### 入学試験

口頭試験 中等学校の入試には「瀬戸内海沿岸に塩田が発達したわけは？」などと、教科の問題が多かったが、戦時中は、「海ゆかば草むすかばね……」の歌や、「八紘一宇」の意味が問われたりした。常識問題と体格検査と内申書で合否が決定されるようになったが、空襲の激しい昭和十九年、岡崎高女では入試すら不可能、内申書のみで代用された。

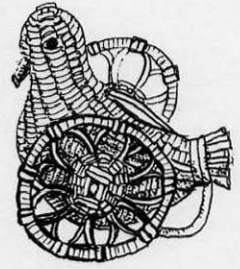
### 実技試験

師範学校の入試では、実技が重視された。図工はスケッチ、体育は鉄棒やとび箱、習字、音楽も。音楽は、君が代をひとりずつ歌う。日ごろ歌っているの……と、たかをくくってかかったのが失敗のもと。いざ試験官の前に立ってみると声は上ずり音程はでたらめ、歌詞さえまちがえてしまうというありさま。  
民主化の波にのって、世はあげて民主主義の声高いころ、一時期、高校側と中学校側で会議の上合否を決定したことが

棟木道中唄

探譜 林和泉  
加藤 明

はるのもよ --は--ね アヨゴ ザン ショ アうめ  
にうぐ いす-#の アヨゴ ザン ショ アさて  
さてみご とによ アコソ ココリキ ココマカ  
リキシガ サンサ ヨゴザン ショ アーリヨイ  
ヨイコリ ヨリ リン リン リン リン リン リン トセ



生平

棟木道中唄

生平地方にうたい継がれてきた俚語は先回の地搦唄の他に綱引き唄・棟木道中唄・棟木引き上げ唄などがあるがいずれも杜寺の建築に際してうたわれる唄である。今回の棟木道中唄は、棟木を宮大工の棟梁または総代の家から羽織袴姿の棟梁を先頭にはつび姿の若衆がかつき村中を練り歩く際にうたわれる唄である。

棟木はこのようにして杜寺に運び込まれ、棟木引き上げ唄で威勢よく引き上げられ上棟式を終るのである。

現在ほとんどうたわれることのないようになったこれら俚語を感慨をこめうたつてくださった古老杉田定一さん、七三歳は次のように語っておられた。

「家が建つつを見る度に棟木唄が聞けないのが寂しい」と。

- (一) 音頭 春のもようはね  
うけ あよござんしよ  
音頭 梅にうぐいすの  
うけ あよござんしよ  
音頭 さてさて見事にの  
うけ コンココリキココ マカリキシ  
ヤガ サンサ あよござんしよ  
アリヤヨイ コリヤヨイ  
リヤンリヤ リヤンリヤ  
リヤンリヤトセ
- (二) 音頭 夏のもようはよ  
うけ あよござんしよ  
音頭 水に螢でね  
うけ あよござんしよ  
音頭 さてさて見事にの
- (三) 音頭 秋のもようはね  
うけ あよござんしよ  
音頭 鹿にもみじでね  
うけ あよござんしよ  
音頭 さてさて見事にの
- (四) 音頭 冬のもようはね  
うけ あよござんしよ  
音頭 雪にこたつでね  
うけ あよござんしよ  
音頭 さてさて見事にの

あった。入試の成績、順位をもとに、中学の担任の意見も加えたものだが、しよせんこの方法は長続きしなかつたようだ。

**受験生心理** テスト用紙の表紙に「指示があるまで絶対に開いてはいけません。」とあり、指示後開いてみると、書き取りでゼツタイという字が出题されていた。明らかに出题ミスであるが、これに気づいた生徒は、五十名中一名。

学活の時間に近所のお宮へ必勝(?)祈願に出かけたり、教室にタルマをかざつたり、大安吉日を待つて願書を出したり、いずれも受験生の気持ちを察しての担任の心づかいが。

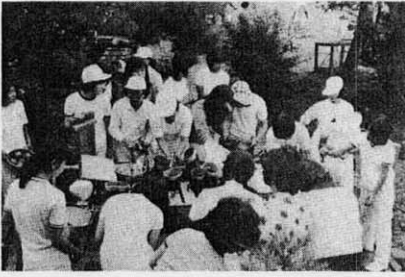
**夜討ち朝駆け** 夜おそく家庭訪問をするところなどは翌朝、父親が学校へ駆けつけるといった風景もよく見られる。

志望校の決定、願書調査書の作成、志願変更、受験、発表、事後指導と担任は文字どおり寝食を忘れる。強引な指導をして失敗、その生徒の家を訪ねる時の足の重さ。首尾よく合格すれば子どもの力だと親はよろこび、失敗すれば担任に責任がまわってくる辛さ。一切終ると、しばし虚脱状態に襲われるものである。

**入試制度の改善へ** 試験科目が九教科より五教科になったのが昭和四十五年、さらに四十八年からは三教科に。この年より学校群制度がとり入れられ調査書も重視されるようになって、問題は山積してはいるが徐々に改善されてきているといえよう。

(神谷卓爾、福若公寿、山本忠男、その他)の他の先生方のお話から

にぎやかに食事の準備—新任教員研修会—



**カナダ児童来訪**  
 子どもの世界に国境はなかった。おとなの心配をよそに、すぐになれて、一しよに遊んだりけんかをしたり。  
 お別れに際しては、てばなしで泣き出すしまつ。その率直さもお国がらか。

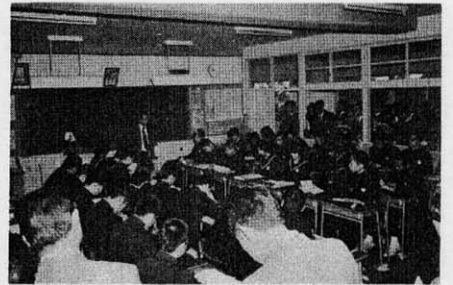


開市450年記念パレード—山中小—

# あゆみ

10・17	10・3	9・27	9・22	9・1	8・16	8・11	7・29	7・23	7・22	7・22	7・14	6・15	6・4	6・2	5・19	5	4・24	4・12	4	4		
青い目の国際親善使節、カナダ、ウイニペグ市児童来訪（美合小）	子どもの生活と遊びを科学する小中学校理科作品展（レオ）	初小合同研究発表会（矢作幼稚園・矢作東小）	小学生も一役	小学校指導計画表（教科・道徳）発行 はびこるセイタカアワダチソウの撲滅に中学生も一役	議会議	明日の岡崎を話し合う中学校生徒会模擬議会	現職教育夏季実技講習会開始 市学童水泳記録会	懇親と学習を深めた新任教員合宿研修会（本宿・働く者の山の家）	小学校球技競技会開始	市長杯中学校総合体育大会開始	よみがえった菅生川に「みかちゃん」放流	こもった教職員体育大会	日ごろ鍛えた投・走・跳、意気と熱気のもつた教職員体育大会	学校に緑をと、学校緑化委員会活動始まる（プロック別さし木実技講習会）	若い力の祭典、中学校総合体育大会	学校環境緑化コンクール全国一（井田小）	本年度研究発表校の研究概要決まる	新風を吹きこむ新任教員七十八名の研修会、郷土学習をはじめに	現職教育委員会総会	自主研究の推進を旨とし早々と発足した	市民待望の新設普通高校建設用地決まる（竜泉寺・養川町）	小学校全校に、VTR設置

全日本中学校道徳教育研究会—南中—



**明日の岡崎の教育と文化を考える**

・ 緑陰講座（八月）

・ 教育と創造 外山滋比古

・ 「日用品公害」 青山光子

・ 「色のあらわれる化学」

・ 「岡崎の気温分布と市民生活」 尾嶋平治郎

・ 特別講演（十月） 田平 誠

・ 「地の花・心の花」 紀野一義

・ 涼秋講座（十月・十一月）

・ 「松平八代と家康の領国支配」

・ 「岡崎の庶民文学」 新行紀一

・ 鈴木勝忠

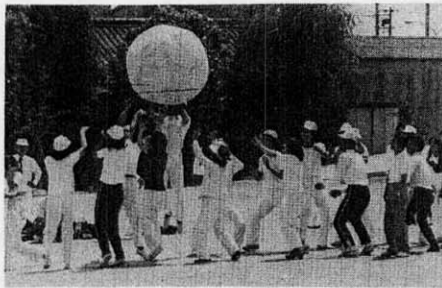
**岡崎子ども祭り**  
 「太陽を、緑を、遊びを子どもたちに」との願いをこめて、第一回子ども祭りが、秋晴れの菅生川原で挙行された。  
 昔なつかしい竹馬、金魚すくいなどから、フラフープ、トランポリンまで、家族そろって終日健全な遊びの楽しさを満喫。



中学校技術家庭研究大会—東海中—

**教職員体育大会**

白熱した競技が繰り広げられる城北中・連尺小グラウンド。第一部に全員が参加する対抗競技、第二部に選手による球技試合と新趣向を加え、童心にかえった一日だった。



童心にかえつたひととき—教職員体育大会—

**公害雑草撲滅運動**  
 アメリカザリガニ以来の帰化生物の脅威、セイタカアワダチソウが蔓延いちじるしいので、各地で撲滅にのり出す。理科部の先生方をはじめ、生徒会を中心に活動を開始、成果が期待される。



# 一年の

3	2	2	2	2	1	1	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11	11	10	10	
刊行		9	8	1	18	17	25	21	13	30	28	23	23	19	9	3	3	3	1	20

力作がずらり—第1回P.T.A文化展—



**岡崎図書館協会 創立二十周年記念行事**  
 学校教育の中で図書館が果たす役割について理解を深めようと、バラエティにとんだ行事が催された。特に感想画展は問題はあるにしても、おもしろい試みとして注目され、また、児童生徒の読書体験発表は、参加者に深い感銘を与えた。

**新任教員合宿研修会**  
 仲間どうしが起居をとにし、一学期間の諸問題を話し合い、学習を深めようと、二日間にわたって研修。  
 内容は講演、先輩の話、体験発表、デイスカッション、キャンプファイヤーなど。びつしり組みこまれた日程にもめげず意欲的に参加、実りの多い研修であった。  
 楽しみはなんといつても食べる。イモの皮むきもあぶなっかしいが、でき上がった味は上々。



菅生川原にひろがる歓声—子どもまつり—

**炎暑ものかは実技講習**  
 今夏実施された講習は次の通り  
 国語・音楽・特殊教育・図工・美術  
 技術・家庭・視聴覚(VTR・OH P) 社会・書写・養護教諭・図書館・家庭・英語

# 教育論文入選者

## 総評

まず、二七四編という多数の応募論文から、教育実践研究の豊かな基盤を感じました。また、各学校とも「〇〇の教育」という名称のもとに、独自の教育体制を希求されている真剣な研究姿勢に敬服しました。

### 1 教科指導研究について

(1) 研究対象とされた分野(領域)、単元(題材)が、過去に自分の学校や市の教育研究会でと

### 2 教科外の指導について

生徒の問題意識をどのようにかみ合わせていくか、できるだけ効率のよい課題設定方法を今後も追求したいものです。

(3) 実践結果の吟味・考察を的確にして、研究目的の達成度を自己評価してください。実践の豊かさに比べて、結果の吟味・考察が貧弱です。このことは、一連の実践の過程に評価が明確に位置づけられていないからです。

### 3 教育論文のまとめ方について

(1) 研究目的・方法を明確にし、研究の結果、明らかになったこと、問題点として残されたことをはっきりと位置づけてください。

(2) 資料の位置づけを今少し的確にするため、

ているものがあります。

実践が単なるアイデア紹介に陥らぬためにも、指導の根拠、必然性が今少し明確にされたいと思います。

## ●教育委員会賞

(個人研究の部)

矢東小	杉浦健支	「主体的に追求する社会科学習」 —5年 農業学習を通して—
三島小	中根恒夫	社会科における学習問題設定の方途
六北小	浜島富	倍概念を重視した九九の指導 —小数の乗法へのつながりを考慮して—
岡崎小	太田要	5年「ものの暖まり方」の単元におけるより確かな指導と評価を求めて
男川小	畔柳吉朗	なま意識にあふれた明るい学級づくり
山中小	岩月勲	子どもの主体性を伸ばす学校経営 —職員研修のあり方、生かし方を求めて—
岩津中	梶尾長夫	問題解決の読書を取り入れた社会科学習指導 —「いわず風土記」の誕生まで—
葵中	稲垣恒夫	社会事象を追求する中で人間をどうとらえていくか —歴史分野の授業を通して—
葵中	名倉昭人	合目的な考えを育てる授業の組織化をめざして —2年 機械学習の実践—
岩津中	梶尾長夫	読書活動を生かした学級集団づくり —スクラム学級の歩み(3)—

## ●努力賞

(個人研究の部)

大樹寺小	池田祐二	やる気を起こさせる国語学習への試み —「授業がおもしろくない」の実態をみつめて—
矢西小	山本久美子	絵日記に映る一年生の心とその広がり
生平小	渡辺邦夫	児童の資料づくりの取りくみの一考察 —歴史学習を通して—
美合小	石原ちよ子	子どもの目を育てるきせつのおたより
羽根小	白井紘子	二部合唱「すずらん」に電話がかかった」を仕上げるまで
奥殿小	尾崎芳信	創造する意欲を高めるダンス指導
藤川小	三貝皇	教室だより
本宿小	玉越健彦	小学校1年生の指導 —基本的な学習習慣を身につけさせるための指導—
男川小	中根麗子	全員参加、全員発言をめざして
常磐小	加藤義夫	集会活動とVTRの利用
福岡小	荻野卓郎	学校と地域社会の協力 —スポーツ少年団活動を通して—
常磐小	宇野五郎	「自主活動の時間」の試み
南中	足立多嘉丸	歴史意識を高めるための社会科学習 —大正デモクラシーを中心として—
岩津中	斉藤哲彦	探究の能力、態度の育成 —電流と磁界の教材研究—
河合中	三木世紫枝	中学校で行う保健指導の検討 —小規模校を例にして—
岩津中	榊原豊	文集づくりを通しての学級づくり

# 昭和49年度

## ●教育委員会賞 (共同研究の部)

細川小	吉狭土 口野岐 高順啓 子子子	語句を情報化する一試み —「げんちゃんどどんぐり」の学習を通して—
秦梨小	現職教育	筋道を立てて考える算数指導をめざして
三島小	神尾房枝 外3名	音楽集會実践の歩み —音楽の生活化をめざして—
奥殿小	現職教育	ひとりひとりの考えを生かした体育指導 —陸上運動を通して—
根石小	現職教育委員会	学級短時間の計画と展開 —学級会活動と学級指導を中心に—
竜海中	中清田 垣水中 貞哲 釧夫	主体的に探究させる理科授業の実践 —評価をふまえて—
矢作中	青木宏 氏次	内容を豊かにするための構想面の指導
葵・矢作・城北・岩津	本田俊子 外7名	合目的な考えを育てる授業の組織化 —休養着を題材としての指導過程の研究—
葵中	大久保安 二名 外4名	「聞くこと話すこと」の言語活動の一試案

## ●努力賞 (共同研究の部)

六中小	柴田正名 外3名	読書への興味、関心を高め読書範囲を広げるにはどうしたらよいか。
羽根小	平野有行 近藤公一	資料の読みとり能力と認識能力との関係
本宿小	八田恵美子 山本克子	イメージづくりによる生きた社会科授業の回復
岩津小	加小藤 藤田栄子 篠田充守 代	なかまづくりを大切にした1年ドッジボールの指導 一体力、技能の向上をめざして—
藤川小	放送教育委員会	学習意欲を高める指導法の一考察 —VTRの利用を通して—
矢北小	現職教育	ひとりひとりを生かす教育の実践
矢作中	社会科部	歴史事象に対する認識を深める社会科指導 —変革期における民衆の動きをとらえる学習を通して—
竜海中	豊島典明 外3名	「図形の変換」の実践研究 —プログラムノートを利用した指導の試み—
甲山中	鈴木重則 外4名	個々の追求を大切にした理科学習指導
甲山・東海美川	蜂須賀千代子 朝雄伸子 鈴木幸子	保育学習における興味関心をおこさせる指導法のくふう
香山中	現職教育	みんなで見つめてひとりひとりを伸ばす指導 —授業の研究と学習態度の育成をめざして—

のように研究されているかを、できるだけ調べ、過去の研究成果を基盤に研究を進めてください。

そのためには、実践記録を教科単位でファイルし、累積しておくと便利です。実践の結果明らかになったこと、問題点とその改善案などを記録しておく、次の指導に研究結果が直接生かされます。

(2) 多くの論文で、生徒の主体性を重んじ、生徒自身が求める学習過程が追求されています。

(1) 学級づくりにして、その他の特別教育活動の指導にして、根気強く実践を積み重ねていかなければ、成果は期待できません。その点、どの論文にも生徒と密接なつながりをもって、粘り強く指導に当たられた歩みが報告されていて敬服しました。

(2) どの論文も、担当学級・担当クラブ等の実態から問題を発想され、生徒とともに行動された着実な歩みが、飾らず率直に報告されているわけですが、論文として、やや混然とし

次のことに留意してください。

必要不可欠な資料だけに精選し、資料の検討を通して論が展開されるようにすること。

(3) 共同研究で、一部の論文にまとまり不足のものがありました。分担執筆の結果を十分共同討議して、まとまりのあるものとしてください。

XXXX ことし海外研修をした人たち XXXX

氏名	校名	研修先	主催・企画団体
畔柳 正弘	葵 中	ヨーロッパ・アメリカ・カナダ	文部省長期研修
吉見 和子	六名小	ヨーロッパ	文部省短期研修
柴田 修一	甲山中	アメリカ	日米協会国際教育交換協議会
山内 博司	岡崎小	ヨーロッパ	日教組海外教育視察団
中根 久治	矢作中	イギリス	個人
長坂 正延	福岡小	ヨーロッパ	国際美術教育協会
板倉 四郎	矢作中	ヨーロッパ	全国中学校理科教育研究会
杉崎利兵衛	岡崎小	ヨーロッパ	全国中学校理科教育研究会
長坂 一昭	梅園小	ヨーロッパ	文部省短期研修
北川 英雄	矢西小	ヨーロッパ	文部省短期研修
神谷 卓爾	岩津中	アメリカ・ヨーロッパ	文部省長期研修
磯谷 栄一	六名小	アメリカ	県教育委員会
古田 忠久	河合中	ソ連・ノルウェー	県教育委員会
高木 節子	連尺小	南米	文部省長期研修
塚本 時丸	福岡小	東南アジア	文部省短期研修
三浦 久子	三島小	ヨーロッパ	全国教職員互助団体協議会
織田理知子	三島小	ヨーロッパ	全国教職員互助団体協議会
中根 清己	市教委	アメリカ・ヨーロッパ	文部省長期研修

街角から

百年の知己のように、挨拶を交わす人々。自然に出てくる「サンキュー」が明るくしてくれた。「ありがとう」のことばの輪を広げたい。

塚本 時丸

高木 節子

「こんな性質の子だから、この絵が描けたのです。」と話していた女教師。恐ろしくへたな教え方をしているのに、自信を持っていた。美しいと思った。

家庭での躾は厳しかった。父親の権力は強い。「へやにはいる時は帽子を取るものだ。」息子に注意していた父親。日本人と同じ感情が流れていると思われた。

紫田 修一

三浦 久子

一流ホテルとは名ばかりで、タオルもナプキンもまっ黒。子どもたちが、「何かくれ。」とせめてたてていたルクソールの町。



教育の現代化と  
放送教育

湘北短期大学教授

有光 成徳

—講演要旨—

教育の現代化ということですが、これについてはいくつかの柱になる考えがあります。第一の柱は、生涯教育を考えるということであり、生涯勉強を続ける学習者自身の立場からいうと「教育」ということはから受ける行政先導型のイメージに対して「生涯学習」と言うべきだと主張する人もあります。生まれてから墓に入るまでの生涯を学習し続ける必要があるという考え方なんです、このことから「三万日学習」と名づけた人もいます。

この「三万日」という数字の根拠は、人間の一生を八十二年と計算して出したものです。一生を学習し続けようという「三万日学習計画」では、一日の学習時間を三時間としていますが、学習方法は、当然のことながら現時点ではテレビとVTRが最も有力な学習機器になるであろうと予想されます。教科の資料だけでなく、生涯教育の主要な方法としての放送教育への配慮がなされてしかるべきだと言うことができましょう。生涯教育の方法として放送学習を利用するという立場から言う、良い番組を選んで視聴することが放送を利用する学習の基本であるという

習慣が学校教育における放送学習の中にもきちんと位置づけられることが必要になってくるのです。生涯の伴侶として放送を利用していくためには、番組名を見ただけで視聴に備える放送番組かどうかを判断でき、その内容を正しく理解できる力、良い番組を選んで視聴する態度を育てることも、義務教育の中に位置づけるべき重要な内容であります。

第二の現代化への柱は、教師主導型から子供主体型学習へということであり、これは、授業を教師中心から子供中心に転換しようとする教育思潮です。録画による部分・分断利用の「放送利用学習」も、それなりに意味があり、教育効果をあげていますが、子供中心型授業への転換という立場から考えてみると、放送教育は「放送利用学習」から「放送学習」に移行していくべきであると私は考えるわけです。

このことは、VTRという機器が開発されて放送をかんづめにして利用できる現在でも、学習の主体者である子供が放送で学習するという立場を尊重しようとする限り、依然として重要視しなければならぬ態度であろうと思うのです。第三の柱には、集団学習から個人学習



# 多彩・豊醇

## —本年度出版物—

多彩で豊醇な出版物が相次いで刊行され、岡崎教育史のページを飾った年であった。随筆、指導記録、郷土誌、指導ハンドブック、研究資料、童話、歌集、紀行、学校百年史等々内容豊富である。しかも、個人、学校、サークルなどによる編集で、出版としての体裁も整ったものが多かった。いわば、出版文化の原型のすべてが出尽くしたかと思われたほどであった。

しかも、かなり長期にわたって研究されたもの、ないしは書き続けられたものの集積が、期せずして出版となったところに、本年度刊行物の特色がある。第二回教育文化賞が「初明かり」「たんぼほの詩」に与えられたのは、こうした地道な努力の積み上げに対する評価でもあった。



### ■個人による出版

自我の壁	板倉 四郎著
初明かり	糟谷 正孝著
同楽山人	角谷 米三著
河合の植物歳時記	永田 績著
西ドイツの人々	黒野 喜美著
はたるとおじいさん	宇野 正一著
山門	稲石 正逸著

### ■学校・グループによる出版

環境保全ハンドブック	河合中学校編
教師の手帳	矢作東小学校編

たんぼほの詩  
教師の記録  
小さな願い  
岡崎の歴史物語

矢作幼稚園編  
本宿小学校編  
福岡小学校編

岡崎子ども風土記

現職教育委員会国語部編

おかざき東海風土記  
風土記

東海中学校編  
六中小PTA編

矢作西小五十年誌

矢作西小学校編

梅園小学校百年史

梅園小学校編

岩中図書五十選

岩津中学校編

矢作西小六十選

矢作西小学校編

でむしの記

岩津小学校編

へという考え方があります。

教師の側から言えば、一斉指導からグループ指導または個別指導へということになります。具体的には教育工学の中で考えられたプログラム学習等であり、ただ、教育活動すべてが個別学習であつてよいかどうかにはいろいろ問題が生じてきます。たとえば、「ラーニングスルーティーチング」という考え方があつて、これは上級生が下級生を教えることによつて自らも学ぶという方法ですが、個別学習とはちがう学習方法であります。学級の人間関係を無視した孤立的な個別学習でなく、個人が集団の中で生かされ、しかも、集団によつて個人が補強されていくというような工夫がなされるべきだと考えます。学習の個別化が進めば進むほど、学級や学校などの社会的集団からの相互教育というものが重視されるようになると考え、間違いないでしょう。放送教育という点からみても、VTRによる個別学習という方向にしか学習の個別化は考えられないなどと、力み返らなくとも放送教育の方向が見つけられると、思うのであります。

第四の柱は、手工業的教育から工業的な教育へということ。教育の科学化を目ざして教育機器を導入し、人間のすべきことを的確に行なうため、機器でできることを機器に任せ、工学的な授業や教育のシステム化を図ろうというものです。極端な機器利用に走るのではなく、それぞれの機器の特性と限界を考慮して、英知をもつて使つていただきたいと思つます。

最後の五つ目の教育現代化の柱は、過去指向型教育から未来指向型教育へとということ。これは、ある意味では前の四つの柱を総括するような、もつとも大切な柱だとも言えます。

過去指向型の教育というのは、教育の中立性を守るということを強調するあまりに、過去の価値観にのみ固執し勝ちになることをさします。したがつて安定した過去の価値観にいつも目が向くので、世の中に変化が生じない時代の教育としては信頼もされるわけです。

ところが、今日私たちが身をもつて体験している目まぐるしく変転する世の中になると、安定した価値観にだけ乗つていたのではだめだということ。特にこれからの社会を生きる子どもたちが、安定した過去の価値観だけを頼りにする人間であつては困るのではないかと、思うのであります。

一方未来指向型の教育では、常に新しい価値観を模索していかなければならぬという、非常にむずかしい課題を教育者が背負わされることになりました。

放送というものをここで考えてみると、未来指向型の価値観育成に対し、非常に大きなバイタリティーを感じるのです。それは、放送という媒体ならびにそのソフトウエア（中味）に、そうした特性が豊かに備つているからです。「生放送、まるごと継続利用」も、未来指向という立場で考えることもできると思つたのであります。

（一月十七日 三島小  
岡崎市放送教育研究大会）

# 昭和49年度研究発表校の研究動向一覽表

発表月日	校名	分野	研究主題	研究概要	研究資料等(研究物(講師、助言者等))
6月26日	岩津中学校	読書指導	本をどのように読ませるか	なにをどのように読ませるかをめぐって 集団読書用図書(選定・採択の問題)追求と、朝の読書や学級読書会の実践を通して、学級集団の中での読書生活の芽を育て、読書習慣の形成をめざしてきた。	・研究物 「中学生の読書指導」 「岩中図書五十選」 ・講師 後藤金好先生 ・助言者 糟谷正孝先生 中根清己先生
9月11日	河合中学校	特別活動	自然環境保全の教育を求めて	・自然環境保全教育計画の確立 ・環境保全の実践活動 ①生徒会活動と学校行事による実践 ②学級会活動の年間計画と保全活動 ③クラブ活動(ゲンジボタルを中心とした保護活動)	・研究物 「自然環境保全の教育を求めて」 「環境保全ハンドブック」 ・講師 筑波大 相川高雄先生 横浜国立大 宮脇 昭先生 県教委主事 佐藤 武先生
9月20日	常磐常磐小学校	教科・教科外	・小中合同研究 ・ふれあいによる個の育成	小中合同研究の可能性を基盤にして、常磐地区の実態調査を手はじめに、焦点を教科・教科外指導にあて、子ども・親・教師の心のふれあいの中から、たくましくねばり強い常磐っ子の育成を願い実践した。	・研究物 「ときわの教育」 ・小中実践記録・16mm映画「ときわの教育」「滝山寺略記」「田遊祭の解説」 ・記念講演 常民のまつりとその心 国立文化研芸能室長 三隅治雄先生
9月27日	矢作幼東小園学校	幼・小国関語連	・考える子どもの育成—遊びの保育— ・考える子を育てる—話し合い活動による思考の深化—	幼稚園では、人間教育としての保育の方法と内容を研究した。これを受けての小学校は、入学当初の関連面と、国語科授業を通して「表現活動」「問題意識と学習方法」「課題発見と追求」がどうあるべきか探る。	・研究物 「たんぼの詩」 「教師の手帳」 ・講師 N H K 杉山邦博氏 ・指導 愛教大 西頭三雄児先生 六名小 糟谷正孝先生 旧豊富小 石川初一先生
10月9日	本宿小学校	社会	子見を育てる 社会科学習	ひとりひとりの児童の問題意識を高め、共通の問題に焦点化することで問題化は成立する。そこで子見をもち検証を進めていくところに主体的学習が行われる。この問題化、子見、検証の過程が研究のポイント。	・研究物 「教師の記録」 ・講師 東京教育大教授桜井徳太郎 ・指導者 愛教大教授山本正一先生 松井貞雄先生 市社会科部長 岩月栄治先生 県市指導主事、市指導員、市世話係
10月25日	常磐常磐東南小学校	国・語・理科	・学ぶ力、心を育てる指導。(国語)常磐東 ・ひとりひとりの考えを育てる授業。(算数)常磐南 ・ひとりひとりの力を伸ばす学習指導。(理科)恵田	小規模校におけるひとりひとりの児童のモチベーションを生かし、それぞれの力を育てる学習指導の研究を各分野にわかれて追求した。	・研究物・発表要項 資料、文集 ・講師 東京女子大学助教 川上源太郎先生 ・助言者 国語 糟谷正孝先生・林 勝己先生 算数 塚本時丸先生・三浦鎌次先生 理科 青木嘉夫先生・稲垣清春先生
11月15日	愛宕小学校	国語・理科	考える力の開発をめざす学習指導—教育機器を活用して国語・理科学習の効率を高める—	・国語の読みとり指導での機器の活用と、理科学習において、学校放送を中心とした機器をどう活用するか。 ・教育機器の充実と管理、VTRの活用法、簡易反応測定器の設置と活用の研究。	・研究物 「考える力の開発をめざす学習指導」「国語・理科指導計画」 ・講師 名古屋大学教授 高桑康雄先生
1月21日	福岡小学校	学習指導	「ひとりひとりの能力を伸ばす指導の実践」 —話し合う能力を育てる指導を通して—	・話し合う学習への手かかりとして、学級集団づくり・教師の発問・児童の学習のし方を取り上げ、ひとりひとりの能力を伸ばす指導のあり方を究明しようとした。 ・4教科と特活の場における実践的研究。	・研究物 「ひとりひとりの能力を伸ばす指導の実践」「小さな願い」(研究実践資料) ・記念講演 「教育の過去と未来」 国立教育研究所 内田 紘先生
2月14日	矢作西小学校	読書指導	読書の楽しみを求めて	「よい本、よく読む、矢西の子」を合いことばに読書を生活の一部に位置づけ、習慣化をはかるように努めてきた。さらに読書興味を開発し、読書の楽しみを求めてきた。	・研究物 「研究要項」「矢西小60選」 「指導こぼれ話」 ・講師 県立大 かつおきんや先生 ・助言者 林和彦先生 林勝己先生 水鳥文夫先生 糟谷正孝先生
2月26日	岩津小学校	体育科	活動力のあるからだづくり	・ボール運動(バスケットボール型)の指導 ・クラブ活動の指導 ・教科外体育活動の実践	・指導助言 岡崎女子短期大学教授 美濃部 栄先生 ・講師 東京教育大学名誉教授 医学博士 杉 靖三郎先生

おしらせ



【刊行あんない】

■歌文集 山門 稲石正逸

四十年間の教職生活の間に生まれた感動的な短歌四五二首、小品一六篇を収録。B6版。二三〇ページ、一七〇〇円

■風土記 六中小PTA編 PTA郷土史研究グループの

手により埋もれた資料をまとめたユニークな郷土誌。A5版、一一〇ページ、八〇〇円

■指導こぼれ話 矢作西小編

■矢西小六十選 矢作西小編

どんな本を、どのように読ませたらよいかと全職員がとりまとめた指導記録と良書リスト。

校舎・体育館・プール

相つぎ完成

地方自治体の財政硬直下の傾向の中にあつて、岡崎市の四十九年度公共、教育施設工事は順調に進んでいる。関係学校では相次いで喜びの完工式が行なわれる。関係施設の概要は次のとおり。

- プール  
細川小Ⅱ低学年用二五五二コース・高学年用二五五五コース。総工費は三二八八万八千円。加藤建設
- 校舎  
根石小Ⅱ鉄筋三階建二六九平方メートル。総工費二四七二万円。主体施工太田建設
- 校舎  
緑丘小Ⅱ鉄筋三階建二三〇七平方メートル。総工費一億八五九八

万円。主体施工三和建設

羽根小Ⅱ鉄筋三階建二五七平方メートル。総工費一九三〇万円。主体施工南部建設

福岡小Ⅱ鉄筋三階建五一八平方メートル。総工費三八五四万円。主体施工村松建設

矢作西小Ⅱ鉄筋三階建一三七六平方メートル。総工費一億三〇〇〇万円。主体施工酒部建設

六ツ美北小Ⅱ鉄筋三階建一〇〇四平方メートル。総工費一億一六五万円。主体施工中根組

矢作中Ⅱ鉄筋三階建一〇九六平方メートル。総工費一億三〇万円。主体施工矢田組

●体育館  
岩津小Ⅱ鉄筋二階建七八五平方メートル。総工費六四八八万円。主体施工村井建設

■視聴覚ライブラリーだより

県教委主催の自作視聴覚教材コンクールで「ビデオ部門」で三河受賞四点のうち二点を優秀賞で飾った。本市の水準の高さを示すものとして本市関係者の努力が高く評価された。○「衛生センターの働き」○岡崎市視聴覚ライブラリー製作 ○「ミシン」○小学校家庭科主任会北ブロック製作

かがみ

小さなできごと

塚本登美子

運動場の片隅に、女の子がかたまつて何かしている。そつと近寄ってみると、供養塚へ花を供えていた。そういえば、4月以来、誰が当番とも決まっていないうのに、いつも花の枯れていたことがない。

聞いてみると、6年生の初め、長い間お世話になったお礼に、何かひとつでもよいから学校のためになることをして卒業しようと、クラスで話し合い、この3人がグループになって、ずっと供え続けてきたという。美しい黄色の羽を血に染めたインク、土の上にぐったりと倒れた兎、解剖実験材料になったふななどの霊を慰めようとして……。

自分のことのみで明け暮れる人の多い近ごろ、小さな生き物への慰霊と感謝の気持ちを持ち続けるその美しい少女たちの行為に、心温まる思いがしたのである (常磐小)

月刊誌刊行の苦しみは、それを継続した者だけが知る苦しみであり喜びである。企画、取材、整理、校正、配布等々、その編集活動は息をつく間もない。この一年間の編集を担当されました方々は次のとおり(敬称略)

- ・糟谷正孝(六名小長)
- ・権田梅芳(美合小長)
- ・大野洋鶴(甲山中)
- ・角谷米三(秦梨小)
- ・都築 泉(矢作東小)
- ・林 勝己(岩津中)
- ・山田利一(男川小)
- ・早川円淨(井田小)
- ・玉越健彦(本宿小)
- ・嶋田 稔(井田小)
- ・千田水城(東海中)
- ・北川英雄(矢作西小)
- ・黒野喜美(福岡小)
- ・松井きよ子(梅園小)

■学芸会紹介

大規模校・美合小の場合  
学年で一つ脚本を選定。学年ごとに四グループを作り出演鑑賞をする。他の学級は授業。出演学級の父兄のみ参観。

鑑賞の組	出演の組	
	A C	B D
一日目	午前	午後
	D B	C A
二日目	午前	午後
	C A	

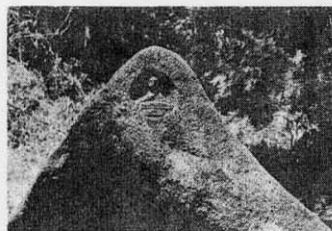
学年内で相互に発声、動作、間合い、テンポなど参考にし合い磨き合つて質的に演技を高める。同じ役がらを二人とする学級と二、三人とする学級、音楽合唱隊、舞踊など学級独自のアイデアが創出される。大道具は学年で共同して製作。小道具、服装は学級ごと。学年内の協力を軸として、学級の個性を発揮するユニークな学芸会である。

## 3月の行事

日	曜	行	事
1	土	岡教組青婦大会 勤労会館	
2	日		
3	月		
4	火	教職員の研修に関する委員会 (市役所)	
5	水	文楽 (市民会館)	
6	木		
7	金		
8	土		
9	日	第5回岡崎市民スケート大会 (スポーツガーデン)	
10	月		
11	火		
12	水		
13	木		
14	金		
15	土	中学校卒業式	
16	日		
17	月	公立高校入学選抜試験 (全日制)	
18	火		
19	水		
20	木	小学校卒業式 教育委員会 (市役所)	
21	金	春分の日	
22	土	高校入試合格者発表 (全日制)	
23	日		
24	月	小・中学校修業式	
25	火	月報岡崎の教育編集委員会	
26	水		
27	木		
28	金		
29	土		
30	日	公立高校入試 (定時制)	
31	月	同上合格者発表	

●カット 小久保 敏子

(東海中)



(足助 大鷲院)

この本を

- 考える愉しさ 梅原 猛  
新潮社 50・1 ￥950
- 食生活と文明 N・H・K 取材班  
日本放送出版 50・2 ￥600
- 大和俗訓和俗童子訓 松田道雄訳  
中公文庫 49・1 ￥280
- 人間の限界 霜山徳爾  
岩波新書 50・1 ￥230
- 逆転の発想 糸川英夫  
ダイヤモンド 49・10 ￥870
- 語源散策 岩瀬悦太郎  
毎日新聞社 49・10 ￥980
- 野の玩具 中田幸平  
中公新書 49・11 ￥340
- ラガナー一家のニッポン日記  
ドメニコ・ラガナ  
文芸春秋社 49・10 ￥900
- しぐさの日本文化 多田道太郎  
筑摩書房 47・7 ￥600
- 走る本 石河利寛  
徳間書店 49・12 ￥600

寸言

「蛍の光、窓の雪、……」いま、子どもたちは学舎を巣立っていく。卒業は出発に通じる。子どもたちの洋々たる前途を祝福しよう。

大試験 山の如くに 控えたり 虚子  
若者の特権は、アタックする、チャレン  
ジすることであるという。身体ごと、力  
いっぱい。

「画竜点睛」今年の教育実践のしめくく  
りを立派にしておきたい。明日の「岡崎  
の教育」のために。



岡崎市梅園町3-7

研文印刷社

(電)22-1235番